

**「京都未来交通イノベーション研究機構設立総会」及び  
「第1回ゼネラル・マネジメント・ミーティング(全体会議)」摘録(敬称略)**

**内 容**

**○ 京都未来交通イノベーション研究機構設立総会**

**1 開会**

**2 京都市挨拶 門川大作 京都市長**

- ・本日は多くの方が研究機構にご参画いただいた。大変ありがたく思う。
- ・ICTを活用することによって、狭い京都の道路でも快適に人とモノが移動できるまちづくりが出来るのではないか。2030年代を見据えて、時代を先取りした取組みをこの研究機構で行ってほしい。
- ・京都の地域力・人間力、京都を始め日本の最先端の技術や皆さんの英知を融合し、未来を築いていきたい。

**3 機構長挨拶 藤井聡 京都大学大学院教授**

- ・今から30年前、現在ではパソコンで簡単に出来るようなことを、大型コンピューターを使って研究していた。ICTの進歩の状況を考えると、2030年代には常識で考えるよりもはるかに先のものがある可能性が高い。
- ・現在政府でも国土強靱化の基本計画が策定され、地域の強靱化を進めようとしている。ここ京都では、国土強靱化の中でも文化の強靱化を進めていくと聞いている。
- ・知識や未来のビジョンを共有し、皆で同じ方向に進むことで大きな力になる。今回の研究機構設立は時宜を得たものであり、本研究機構が全員のWin-Winに繋がる場になればと思う。

**4 御来賓挨拶 中村三之助 京都市会議長**

- ・近年、ICTの進化は我々の想像を超え、携帯電話・スマホ等の普及に伴い、身近なものとして深く生活に浸透し、より便利で快適な日常生活に貢献している。
- ・伝統と革新に裏打ちされたここ京都で、グローバルに活躍する先進的企業と、千二百年の歴史をもつ伝統産業企業などの「産」と、全国に誇る知の集積である大学等の「学」が交わり、さらに市役所をはじめとする「公」がかけ合わさる日本一の産・学・公連携によりこれまでにないイノベーションが起こり、素晴らしい研究成果を出されることを心から期待する。

**御来賓挨拶 立石義雄 京都商工会議所会頭**

- ・産学公が連携しながら、従来の交通のあり方を抜本的に変えるような未来交通を切り口として、ICT やビッグデータを活用して幅広い分野を対象に実証実験などに取り組む本研究機構は、これからの我が国の経済社会のあり方を展望するうえで誠に時宜を得たものであり、大変意義深いものとする。
- ・快適な歩行者空間、そして次世代の都市交通システムの整備促進などによる最適化

## 内 容

された社会づくりに取り組んで、新たな市場創造に結び付けていくことは、京都経済界としても大変重要と考える。

### 5 御出席者御紹介

### 6 動画放映 高松伸 建築設計事務所

### 7 閉会

## ○ 第1回ゼネラル・マネジメント・ミーティング(全体会議)

### 1 開会

### 2 ビジョン(案)の検討, 共有

#### 質疑応答

#### (1)一般社団法人 システム科学研究所

・カテゴリー(テーマ別研究・開発グループ)間の連携や情報交換等はどのように考えているのか。

⇒各カテゴリーでの会議は頻繁に開催するとともに、各カテゴリーは重なる部分も多く出てくると思われるため、カテゴリー間での情報交換の場を積極的に設けたいと考えている。

・ICTを活用したオープンなデータベース等を参加者が使えることが重要だと思うが、取り組む予定はあるのか。

⇒車や人、自転車の動きをリアルタイムで把握するという事は、非常に重要であると考えている。各参加者が持つ情報を提供してもらうことに加え、これまでの収集方法とは全く異なる新たな収集方法についても、この研究機構で検討していきたい。

#### (2)国土交通省都市局 清水喜代志 街路交通施設課長

・若い人の移動回数が減っているという資料があるが、これは将来の生活習慣病や医療費の増大にとっても、非常に重要な問題だと思う。

・国土交通省都市局でも、市民に対して外出が楽しくなるような機会を増やし、歩くことを通して健康づくりを実現することは重要だと考えている。

### 3 研究内容等発表

#### (1)株式会社 ゼンリンデータコム

・京都・大津を中心としてバリアフリーの3次元の地図データで案内することを、具体的な研究テーマの一つとして掲げている。

・地図上に人の流動ということをリアルに表現していく研究をすることで、この先、2030年、2045年に向けて実際に産業人口がどう変化するかということも把握していきたい。

・宿泊外国人観光客ではなく、日帰りの外国人観光客がどれだけ流動しているかということも、Wi-Fiを使って情報収集していくサービスを含めて研究できればと考えて

## 内 容

いる。

### (2)内閣府 宇宙戦略室 守山宏道 参事官

- ・「みちびき」は準天頂衛星と呼ばれている衛星で、現在1基打ち上げられており2010年代の後半を目途に、まずは4機体制を整備する予定。これにより、日本の上空から付加価値の高い電波を届けることができる。
- ・準天頂衛星が整備されることにより、例えば高精度測位と屋内外のシームレスな移動観光案内の実現、カーナビゲーションシステムの高度化、災害時の情報提供や安否確認への活用が可能になる。
- ・準天頂衛星には、3つのFがある。1つ目のFは「Free」、空から電波が無料で提供されるということ、2つ目のFは「Fresh」、情報鮮度が非常に高い、それに基づく色々なサービスができること、3つ目は「Fuji-san」のF、頂が高く裾野が広い、そういった社会システムやビジネスモデルを準備できる。

### (3)立命館大学情報理工学部 服部宏充 准教授

- ・計算機の計算結果と人の知恵を組み合わせることによって、人間が頭の中で考えるだけでは出てこないような、新しい知恵が引き出せるのではないかと考えている。
- ・現在研究している、マルチシミュレーションを使った新しい交通施策や交通システムの導入の検討などを、この研究機構でも出来ればと思う。
- ・大規模な交通シミュレーションを実施し、システムを網羅的に分析することにより、それにより色々な状況に対して、効果の高い施策や安定的に機能する施策ができないかと考えている。

### (4)日本電気 株式会社

- ・生き物に学ぶような柔軟な制御手法があるのではないかと考え、その結果出てきたものが自律適応制御というもの。これを交通の分野にも適用できないか、研究している。
- ・自律適応制御は、ビッグデータを活用し、次にクルマがどう動いた方が渋滞を起こさないか、人がどういうふうに戻っていけば混雑にぶつからないのか、リアルタイムに指示したり、制御に当たる技術。
- ・「みちびき」の特色としては、一つはセンチメートル級といわれる、10センチメートル位の精度を実現するためのサービス、あるいは、メッセージを配信できるというサービスを持っている。

### (5)京都大学学術情報メディアセンター 美濃導彦 教授

- ・情報をうまく提供することによって、人がどう動くのか、提示の仕方に興味がある。人間の嗜好によって言い方を変えなくてははいけないし、提示方法も変えなくてははいけない。
- ・IoTと言われている、インターネットに色々なものを繋ごうという話が、これから大変重

## 内 容

要になってくる。

- ・この研究機構で取り組みたいと思っている内容は、公衆無線LANを展開し、そこに色々な会社が入れ、情報を繋ぐプラットフォーム的なものを作ることである。ありとあらゆるデータを集めて共有できる、こういうことを京都という地域でやってみたい。

### **(6)リアライズ・モバイル・コミュニケーションズ 株式会社**

- ・京都初となった5か国語対応の京都観光アプリ「京都はんなりガイド」を作成した実績がある。
- ・コミュニティサイクル「まちかどミナポート」は市内に複数の拠点を置き、好きなところで返せるという非常に新しい仕組みのレンタサイクルにも取り組んでいる。「まちかどミナポート」のステーションに電動の小型の乗り物、これを京都に設置できたらと思っている。
- ・バス停を一つの情報配信ステーションにして、運行情報等はもちろん、バス停近くの観光情報や近くのお店のクーポン情報、災害時には避難情報の案内が出来たりすることで、一つの情報の配信の場としてバス停が活用できないか。

### **(7)名古屋大学未来社会創造機構 手嶋茂晴 特任教授**

- ・いつまでもいきいき活動し、暮らせる社会とモビリティを実現することを目標として活動しており、具体的には運転年齢10年延伸を目指している。例えば75歳で免許を返上していた人が、85歳まで免許を持って運転でき、移動できる街にするにはどうしたら良いかということ研究している。
- ・また、交通社会ダイナミックマップという、地図上に動くもの(人・自動車・自転車等)を表し、それを地域で全部共有化して、今道の上で起きていることをマップの上で表現しようとする研究もしている。これにより高齢者がストレスなくこのマップの情報を使いながら、動くような街を作っていきたい。

### **(8)バンプレコーダー 株式会社**

- ・京都市では道路延長が約3,550キロ、うち市町村道は約2,900キロあるが、これをスマートフォンを活用して、どこの道路がデコボコしているか、データを収集することができるシステムを開発した。
- ・このシステムを活用することにより、従来型のプローブ(自動車等の道路交通情報)や配車管理、バスロケーション、安全運転といったところにも寄与できる。

### **(9)日本アイ・ビー・エム 株式会社**

- ・オープンデータ(※1)やビッグデータ(※2)というキーワードが出ているが、そのオープンデータ・ビッグデータをIBMの分析ソフトウェア・研究開発でどのように京都の街で活かせるのか、ということビデオでまとめた。

(※1)機械判読に適したデータ形式で、二次利用が可能な利用ルールで公開された

## 内 容

データ

(※2)ICT(情報通信技術)の進展により生成・収集・蓄積等が可能・容易になる多種多量のデータ

(ビデオ上映)

### (10)特定非営利活動法人 ITS Japan

- ・現在はスマートフォン・クラウド等に代表されるようなネットワーク社会の急速な発展・浸透により、自動車がネットワークと繋がっていくような、パラダイムシフトが起こっているのではないかと認識している。
- ・オープンデータ・ビッグデータの利活用は、市民との協働という形で作りあげられていくのではないかと考えられ、地域経済に貢献する新しいサービス、産業創造がこの研究機構の中で生まれてくることを期待したい。

### 4 閉会挨拶 飯田恭敬 京都大学名誉教授(顧問)

・この研究機構に参加するということには2つのメリットがあると思う。

1つは自分たちの研究活動が学会という限られた範囲ではなく、世間に、或いは社会に広く周知し、そしてそれが使われてビジネスに繋がる。

もう1つは京都という場での実証研究・事例研究、これは世界的なインパクトが期待できる。

・この中のいくつかだけでも良いので、是非とも事業化に繋げていただきたい。

(20:30)